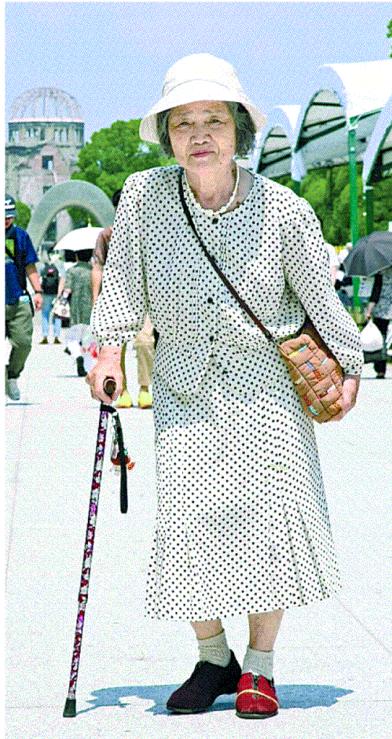


とボランティアを始めた県人もいる。月日が流れても、変わらない「ヒロシマ」の思いを伝えたい。

が世界平和につながる』と訴えます』。松井市長が引用したのは、河内さんが子どもたちに語り続けてきた



「被爆者の多くは亡くなっている。体力の許す限り、体験を伝えていきたい」と語る河内政子さん＝6日、広島市中区の平和記念公園

家族失つたあの日

本県高校生らに体験語る

ら70年。被爆者の平均年齢は初めて80歳を超えた。「世界中から戦争が、核兵器がなくなりますように」。広島には、高齢を押して語り続ける被爆者がいる。若い世代に关心を持つてほしいとボランティアを始めた県人もいる。月日が流れても、変わらない「ヒロシマ」の思いを伝えたい。

が世界平和につながる』と訴えます」。松井市長が引用したのは、河内さんが子どもたちに語り続けてきた

伝えたい
ヒロシマを

<上>

思いだ。

4日は生徒18人に「戦争は

屋根と
木

た。

「私の思いも乗せて、世界に通じてほしい」。平和宣言を聞き、河内さんはあらためて頼った。

4日は生徒18人に「戦争は絶対にしてはいけない」と精いっぱい訴えた。70年前、河内さんは爆心地に近い市街で暮らしていく。

な強烈な光の後、屋根と
壁土が落ち真っ暗になつた。なんとか外に出たら体のあちこちにガラスが刺さつていた。両親や姉を探してほしくない。国と国との間に隔てがあることを知った。

高等女学校4年の16歳で被爆し、両親と姉を亡くした。戦争と原爆の現実を子

たしかし前日の「『一自宅が空襲に遭つたら一家全滅だから』と、両親の勧め

ため翌日自宅に帰ることとしたが、道や川が遺体でふさがり戻ることはできなかつたが、道内さんの思いを、本懲りんかて命を失つてほしくない」と強調する。

使命

使命

6年前からは、毎年広島を訪れる敬和学園高（新潟市北区）の生徒にも語る。そして6日午前8時15分。「カメラのフラッシュが何百何千とたかれたよう

は、玄関で父が、台所で姉が白骨となっていた。母は戦後、お互いの消息を知らず、上半身が黒く焦げ、下半身なかつたが、20年ほど前に人は女学校時代の同級生。

入ったあの日

が真っ白になつた」。自分で交流を続ける。広島で新も死のうと家族の骨を防空漏で子どもたちに原爆の恐ずきんに入れ、川に入ろうろしさを語る2人は「お互と歩いた。でも川に下りるここまで生きてきたから石段は遺体で埋め尽くされ伝えていこう」と支え合う。被爆から70年。河内さん

A close-up photograph of a person's shoulder and arm. They are wearing a white dress with black polka dots and a brown cross-body bag with a colorful, textured pattern. In the background, there are green trees and a white tent-like structure.

は亡くな
る。体力の
命を伝えて
語る河内政
広島市中
公園

や山内さんの思いは、平和
な時代に生きる若者に引き
継がれる。4日に河内さん
の体験談を聞いた敬和学園

な時代に生きる若者に引き継がれる。4日に河内さんの体験談を聞いた敬和学園高の五十嵐理浩君(17)は真剣な表情で語った。「僕らは河内さんからバトンを受け取った。そのバトンを(次の世代に)つなげていくのが使命だ」